

千葉市大宮学校給食センター（仮称）整備事業に関する 客観的評価について

本市は、千葉市大宮学校給食センター（仮称）整備事業について、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（ＰＦＩ法）」に基づき進めております。市は、このたび「千葉市ＰＦＩ事業審査委員会」（委員長 宮脇淳 北海道大学大学院法学研究科教授）の審査を経て決定した落札者と特定事業契約を締結しましたので、同法第８条の規定に基づき、事業者選定における客観的評価の結果を以下のとおり公表します。

平成 15 年 12 月 15 日

千葉市長 鶴岡 啓一

1 事業の概要

「千葉市大宮学校給食センター（仮称）」は、より豊かで安全な学校給食の実現を目的とする「学校給食センターの再編・整備計画」の一環として、千葉市若葉区大宮町に整備する施設です。

本事業は、ＰＦＩ事業者が自ら調達する資金を用いて、「千葉市大宮学校給食センター（仮称）」を整備し、その後 15 年間の運営期間を通じて施設の維持管理及び事業運営を行うものです。

なお、事業概要の詳細については、添付資料 1 を参照してください。

2 落札者の決定経緯

本事業における契約方法は、総合評価一般競争入札（地方自治法施行令第 167 条の 10 の 2）により実施しました。

平成 15 年 8 月 29 日の入札には、4 グループから提案書の提出を受け、千葉市ＰＦＩ事業審査委員会は、あらかじめ公表した落札者決定基準に従い提案内容の審査を行い、平成 15 年 10 月 6 日に鹿島建設グループ（鹿島建設グループの構成員については、次表参照）を最優秀提案として選定しました。

その結果を踏まえ、市は、平成 15 年 10 月 9 日付けで鹿島建設グループを落札者として決定しました。また、平成 15 年 12 月 11 日には、鹿島建設グループが提案に基づき設立した「株式会社千葉大宮学校給食サービス」と特定事業契約を締結しました。

審査の方法等及び事業者の選定結果の詳細については、添付資料 2 及び添付資料 3 を参照してください。

< 鹿島建設グループ >

代表企業	鹿島建設株式会社
設計企業	株式会社 I N A 新建築研究所
建設企業	鹿島建設株式会社
	旭建設株式会社
	三建設備工業株式会社
運営企業	株式会社東洋食品
設備企業	日本調理機株式会社
維持管理企業	株式会社ダイワサービス
廃棄物処理企業	市川環境エンジニアリング

3 P F I 事業者の事業計画に基づく財政支出の削減効果

落札者の提案に基づき、本事業を実施する場合の市の財政支出について、市が直接事業を実施する場合の財政支出と比較を行ったところ、現在価値換算で 24.4%の削減が期待できることとなりました。

また、落札者の優れた提案により、特に運営面において、安全・衛生面や残滓のリサイクル等からなる良質な公共サービスを提供できることが期待できます。

財政支出の削減効果（現在価値換算値：基準年＝平成 15 年度）

従来方式における 千葉市財政支出	82.07 億円
落札者の提案に基づき 事業者に支払う千葉市財政支出	61.30 億円
P F I 事業の実施に伴う直接的な 千葉市財政支出	0.72 億円
P F I 方式における 千葉市財政支出（ + ）	62.02 億円
P F I 方式の導入による 財政支出の削減効果（ - ）	20.05 億円 （ 24.4% ）

注） 及び については、平成 15 年 4 月 25 日付けで公表した特定事業の選定における前提条件から算定した。（ただし、現在価値換算基準年を入札参加者提案書と同一にするため、平成 14 年度から平成 15 年度に変更）また、 は事業者からの市税収を控除している。

添付資料1 事業の概要

(1) 事業名

千葉市大宮学校給食センター（仮称）整備事業

(2) 公共施設等の管理者等の名称

千葉市長 鶴岡 啓一

(3) 事業の目的

学校給食は、義務教育諸学校における教育の目的を実現するため、成長期にある子供たちに栄養バランスのとれた食事を提供することを通じて、望ましい食習慣の養成、好ましい人間関係の形成、健康の増進等の目標を達成することを目指して、継続的かつ計画的に実施しなければならない。

本市では、このような学校給食の理念を踏まえ、より豊かで安全な学校給食の実現を目指し、努力しているところである。

現在、本市の中学校給食は、事業運営の中心である学校給食センターの老朽化等の問題を抱えているとともに、安全性の向上、食環境への対応及び運営面の環境への配慮等が求められている。

本事業は、このような課題・市民の期待に対応していくため、「より豊かで安全な学校給食の実現を」目的とする「学校給食センターの再編・整備計画」の一環として千葉市若葉区大宮町に学校給食センターを整備するものである。

また、従来から求められてきた「より効率的な運営」を図るとともに、民間が有する食品衛生に関するノウハウを活用し、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（以下「ＰＦＩ法」という。）に基づく事業手法を用いることにより、さらに安心な学校給食の実現を図るものである。

(3) 事業概要および実施上の留意点

本事業は、ＰＦＩ法に基づき、ＰＦＩ事業者（以下「事業者」という。）が本給食センターを整備し、事業期間内において施設の維持管理及び運営を行う。

事業は、以下の点を十分に踏まえ、実施する。

食品衛生上の技術的水準を高めるための、ドライシステム及び汚染・非汚染区域の明確なゾーニングの導入

H A C C P (Hazard Analysis Critical Control Point) の概念を取り入れた衛生管理への対応

施設の防音・脱臭を考慮した近隣との共生

省エネルギー化

生ごみの減量化及び再資源化への対応

(4) 事業の内容

ア 事業方式

施設は事業者が所有するＢＯＴ方式とする。

イ 事業期間

事業期間は、次のとおりとする。

工 事 平成16年 4月から平成17年 1月まで10か月間

開業準備 平成17年 2月から平成17年 3月まで2か月間

事業運営 平成17年 4月から平成32年 3月まで15 年間

なお、平成 32 年 4 月以降の施設の維持管理及び運営に関しては、必要に応じて、事業者の意見をききながら、市が事業期間内に決定する。

ウ 業務範囲

施設の設計・建設業務

施設の維持管理業務

運営業務（学校給食に係る業務）
市への施設の所有権移転業務

エ 事業者の収入

市は、事業者が実施する施設の設計・建設への対価を、賃借料として、あらかじめ定める額を運営期間にわたって事業者に支払う。この額は、各回の支払いにおいて同額とする。なお、提案から市の指定する日（平成17年 1月末日とする。）までの金利変動については、これを勘案して賃借料の額を改定する。

市は、事業者が実施する施設の維持管理及び運営の対価を、委託料として運営期間にわたって事業者に支払う。委託料は、物価変動に基づき、年に1回改定する。また、委託料は、固定料金と変動料金で構成されるものとする。

固定料金には、施設保守管理、清掃、警備、車両調達等にかかる費用が含まれ、変動料金には、提供食数に応じて変動する調理人件費、光熱水費、残飯処理費等に係る費用が含まれることを想定している。

（５）施設の概要

事業用地：千葉市若葉区大宮町1，068番地2他

敷地面積：9，789．01㎡

（事業範囲外の通学路，養護学校の利用地及び道路拡張用地分含む。）

供給能力：11，000食／日

添付資料 2 審査の方法等

1 審査方式

事業者の選定に当たっては、総合評価一般競争入札（地方自治法施行令第 167 条の 10 の 2）により実施した。また、本事業は W T O 政府調達協定の対象であり、地方公共団体の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令に基づき実施した。

2 事業者選定等のスケジュール

平成 15 年 5 月 16 日（金）	入札公告及び入札説明書等の交付等
平成 15 年 5 月 16 日（金）～8 月 28 日（木）	地質調査及び現況測量調査結果の提示
平成 15 年 5 月 20 日（火）	入札説明書に関する説明会及び現地見学会
平成 15 年 5 月 30 日（金）	入札説明書等に関する第 1 回質問受付
平成 15 年 6 月 13 日（金）	入札説明書等に関する第 1 回質問に対する回答等
平成 15 年 6 月 20 日（金）	参加表明書、参加資格審査申請書類受付
平成 15 年 7 月 2 日（水）	参加資格審査結果の通知
平成 15 年 7 月 3 日（木）～7 月 15 日（火）	参加資格がないと認めた理由の説明要求
平成 15 年 7 月 3 日（木）	入札説明書等に関する第 2 回質問受付
平成 15 年 7 月 18 日（金）	入札説明書等に関する第 2 回質問に対する回答等
平成 15 年 7 月 22 日（火）	参加資格がないと認めた理由の説明要求に係る回答
平成 15 年 8 月 29 日（金）	入札及び提案書の受付
平成 15 年 10 月 9 日（木）	落札者決定及び公表
平成 15 年 11 月 25 日（火）	仮契約締結
平成 15 年 12 月 11 日（木）	事業契約締結

3 委員会の設置

学識経験者等で構成する千葉市 P F I 事業審査委員会（以下「審査委員会」という）の審査により選定された最優秀提案をもとに、市が落札者を決定した。

委員は、次の 7 名で構成される。

委員長	宮脇 淳	北海道大学大学院法学研究科教授
職務代理	中村 玲子	政策研究大学院大学教授
委員	石井 克枝	千葉大学教育学部教授
委員	江口 直明	東京青山・青木法律事務所弁護士
委員	江澤 範子	(前)千葉市青年協議会会長
委員	海宝 和	千葉市 P T A 連絡協議会顧問
委員	根本 祐二	日本政策投資銀行地域企画部審議役

4 審査の方法

(1) 入札参加資格の確認審査（以下「参加資格審査」という。）

市は、参加資格審査申請書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを確認する。

(2) 最優秀提案の選定

ア 入札価格の確認

市は、入札書類に記載された入札価格が、予定価格を超えていないことを確認する。

イ 提案内容の基礎審査

審査委員会は、提案書に記載された内容について、あらかじめ公表した落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認する。

ウ 提案内容の定量化審査

審査委員会は、提案書に記載された内容について、あらかじめ公表した落札者決定基準に示す得点化基準に従って、次の配点表に基づき得点化し、得点の合計が最も高い提案を優秀提案として選定する。

表 定量化審査の配点表

審査項目（小項目別）		配 点
1) 設計・建設業務に関する事項		(9 点)
	衛生管理計画	3 点
	環境への配慮	3 点
	バリアフリー	1 点
	工程計画	2 点
2) 維持管理業務に関する事項		(6 点)
	維持管理体制	2 点
	修繕計画	2 点
	清掃業務	1 点
	その他維持管理業務	1 点
3) 事業運営業務に関する事項		(2 5 点)
	調理体制	5 点
	調理過程の安全性	4 点
	衛生管理業務	4 点
	運搬中の安全性	2 点
	残滓の発生抑制・リサイクル	5 点
	給食の受け渡し後の安全性	1 点
	食中毒等の原因究明	2 点
	その他安全、衛生への配慮	2 点
4) 事業計画に関する事項		(1 0 点)
	資金調達・返済計画の安定性	2 点
	資金調達の確実性	2 点
	リスク管理の方針	3 点
	市が実施する食数調整の自由度	1 点
	地域経済・社会への貢献	2 点
5) 入札価格に関する事項		(5 0 点)
	入札価格	5 0 点
合 計		1 0 0 点

添付資料 3 事業者選定結果

1 参加資格審査

平成15年6月20日に、次の4グループから参加表明書及び参加資格審査申請書類の提出があった。各グループの構成員は、次に示すとおりであり、市は、審査の結果4グループいずれも入札説明書に記載の参加資格要件を満たしていることを確認した。

表 入札参加表明グループ一覧

	グループ	グループ	グループ	グループ
代表企業	(株)大林組	鹿島建設(株)	(株)日立製作所千葉支店	(株)レパスト
設計企業	(株)大林組 (株)田中建築設計事務所	(株)INA 新建築研究所	(株)千都建築設計事務所 (株)日立建設設計	(株)佐藤総合計画 大成建設(株)
建設企業	(株)大林組	鹿島建設(株) 旭建設(株) 三建設備工業(株)	東亜建設工業(株)千葉支店 日立プラント建設(株)関東支店 岩田建設(株)東京支店	大成建設(株)
給食運営企業	(株)グリーンハウス	(株)東洋食品	(株)日京クリエイト	(株)レパスト
その他企業		(株)市川環境エンジニアリング 日本調理機(株) (株)ダイワサービス	(株)日立ビルシステム (株)日立製作所千葉支店	日本通運(株)

2 提案書の審査等

平成 15 年 8 月 29 日に、4 グループから提案書が提出され、以下の審査を行った。

(1) 入札価格の確認

各グループの入札価格は次に示すとおりであり、予定価格 10,538,000,000 円の範囲内であった。

グループ名	入札金額(単位:千円)
A	8,476,557
B	7,666,155
C	8,847,720
D	5,939,295

注意) 上表は、前頁のグループの並び順と一致していない。

なお、当ページ以降の A グループ表記は、鹿島建設グループである。

(2) 基礎審査

4 グループの提案書に記載された内容について、「落札者決定基準」に示す基礎審査項目を満たしていることを確認したところ、D グループの提案書は、基礎審査項目の一部を満たしていないと判断されたため、この段階で失格と判断した。

(3) 定量化審査

A グループ、B グループ及び C グループの建設業務提案書、維持管理業務提案書、事業運営提案書及び事業計画提案書について、次に示す項目について評価を行い、評価に応じて得点を付与した。

表 定量化審査内容

1) 設計・建設業務に関する事項	
衛生管理計画	
具体的かつ効果的な提案	全グループの提案において、H A C C P の概念の遵守、調理の安全性を重視した諸室の機能要件、衛生面に配慮した調理設備・機械機器について具体的に明記されており評価できる。また、A グループの提案において調理員と施設見学者の動線の分離、衛生管理に配慮した設計監理・工事監理体制、B グループの提案において衛生管理に特に配慮した洗浄度区分、衛生管理に配慮した設計監理・工事監理体制が具体的に明記されており評価できる。
環境への配慮	
周辺環境への騒音・異臭対策	全グループの提案において騒音・振動対策、異臭要因の把握とその抑制方策について具体的に明記されており評価できる。
景観的配慮	A グループの提案において、周辺に配慮した建物外観のデザインが提案されており評価できる。
環境負荷低減	全グループの提案において、エコマテリアルの使用、省エネルギーに対する方策について具体的に明記されており評価できる。
バリアフリー	
具体的内容の明記	全グループの提案において、施設共用部分におけるバリアフリーについて具体的に明記されており評価できる。
工程計画	
敷地内の他の工事との調整	C グループの提案において、道路の拡幅工事等との調整について具体的に明記されており評価できる。
確実な工程管理	全グループの提案において、各工程の具体的な内容、確実な工程管理のための具体的方策が明記されており評価できる。
その他	A グループの提案において、工程・安全管理を徹底する具体的方策が明記されており評価できる。

(設計・建設業務に関する事項総括) 当該事項において、 全てのグループ の提案で、各評価項目において優れた提案が確認できた。特に、 Aグループ 、 Bグループ の提案は、衛生管理計画において、より多くの優れた提案が確認でき、高い評価につながった。	
2) 維持管理業務に関する事項	
維持管理体制	
実施体制、責任分担	全グループ の提案において、実施体制、責任分担が明記されており評価できる。また、 Bグループ の提案において、各維持管理業務の効率的な連携体制が明記されており評価できる。
緊急時対応	Aグループ 、 Cグループ の提案において、事故発生時の具体的な対応策が明記されており評価できる。
修繕計画	
修繕対象の詳細検討	全グループ の提案において、修繕表の作成により修繕対象について明記されており評価できる。
修繕計画の十分な実施頻度	全グループ の提案において、十分な実施頻度の計画が確認でき評価できる。
効果的な保全・予防を目的とした修繕実施基準	全グループ の提案において、保守点検結果の修繕計画へのフィードバック等効果的な保全・予防を目的とした修繕実施基準について具体的に明記されており評価できる。
事業期間後の維持管理を考慮した修繕計画	全グループ の提案において、事業期間終了年度における一定規模の修繕が計画されており評価できる。
清掃業務	
具体的かつ効果的な提案	Aグループ 、 Bグループ の提案において、清掃作業担当者の教育、清掃後の確認体制について具体的に明記されており評価できる。
その他維持管理業務	
具体的かつ効果的な提案	全グループ の提案において、緊急時対応マニュアルの整備、独自の漏水対策等具体的に明記されており評価できる。
(維持管理業務に関する事項総括) 当該事項において、 全てのグループ の提案で、清掃業務を除く各評価項目において優れた提案が確認できた。 Aグループ 、 Bグループ の提案は、清掃業務において確実性、安定性の観点から優れた提案が確認でき、より高い評価につながった。	
3) 事業運営業務に関する事項	
調理体制	
指示系統の明確化	Aグループ 、 Bグループ の提案において、従業員の指示系統及び調理工程ごとの責任者が明確化されており評価できる。
個人能力の明確化	Aグループ 、 Bグループ の提案において、責任者の要求水準を上回る資格及び経験が明記されており評価できる。
業務の把握と人員配置	Aグループ の提案において、業務内容を把握した上での分類・系統化や業務ごとの人数把握がされており評価できる。
研修等の実施	Aグループ 、 Cグループ の提案において、実施する研修の内容及び頻度について具体的に明記されており評価できる。
業務マニュアルの作成	Aグループ 、 Bグループ の提案において、業務マニュアルの作成について具体的に明記されており評価できる。
その他	Aグループ 、 Bグループ の提案において、研修業務への協力、従業員のインセンティブにつながる工夫について具体的に明記されており評価できる。
調理過程の安全性	
衛生管理マニュアルの作成等	全グループ の提案において、衛生管理マニュアルの作成について明記されており評価できる。特に、 Aグループ の提案において、マニュアル遵守の点検方策、マニュアルの改善方策等について具体的に明記されており評価できる。
安全、衛生面での具体的方策	全グループ の提案において、保管機器等のコンピュータによる温度管理等について具体的に明記されており評価できる。特に、 Aグループ 、 Cグループ の提案において、実効的な検食実施等について具体的に明記されており評価できる。
その他	全グループ の提案において、安全衛生の観点から具体的に明記されており評価できる。特に、 Aグループ の提案において、食材受入時の検品の実施、給食の数量不足に対する対応策等について具体的に明記されており評価できる。

衛生管理業務	
衛生管理の体制	Aグループ、Bグループの提案において、衛生専門の部署の設置等について具体的に明記されており評価できる。
衛生検査の内容等	全グループの提案において、衛生検査の内容について具体的に明記されており評価できる。
健康管理の内容等	全グループの提案において、作業当日の健康管理等について具体的に明記されており評価できる。
衛生研修の内容等	全グループの提案において、衛生研修の内容について具体的に明記されており評価できる。
その他	Aグループ、Bグループの提案において、衛生関連の情報配信等について具体的に明記されており評価できる。
運搬中の安全性	
運搬計画等	全グループの提案において、従業員の指示系統の明確化、配送計画の明確化等について具体的に明記されており評価できる。
緊急時対応	全グループの提案において、具体的な内容が明記されており評価できる。特に、Aグループ、Bグループの提案において、GPS装置の搭載や予備車の待機等について具体的に明記されており評価できる。
配送車等の仕様	Aグループの提案において、具体的な内容が明記されており評価できる。
受け渡し方策	Aグループ、Bグループの提案において、受取職員との連携等について具体的に明記されており評価できる。
研修の内容等	Aグループ、Bグループの提案において、安全運転教育の実施等について具体的に明記されており評価できる。
その他	Aグループ、Bグループの提案において、配送校構内の徐行運転等について具体的に明記されており評価できる。
残滓の発生抑制・リサイクル	
方針等の明記	全グループの提案において、残滓処理方法に関する方針等について具体的に明記されており評価できる。
残滓抑制の具体的方策	Aグループ、Cグループの提案において、具体的な内容が明記されており評価できる。特に、Aグループの提案において、残滓発生状況の把握等について具体的に明記されており評価できる。
残滓のリサイクルに関する具体的方策	Aグループ、Bグループの提案において、具体的なリサイクル外注先等について明記されており評価できる。
その他	Aグループ、Cグループの提案において、残滓リサイクルにおけるバックアップ体制等について具体的に明記されており評価できる。
給食の受け渡し後の安全性	
具体的かつ効果的な提案	Aグループ、Bグループの提案において、受け渡し時間の調整等について具体的に明記されており評価できる。
食中毒等の原因究明	
具体的かつ効果的な提案	全グループの提案において、調理工程ごとの実績管理と責任者の明確化等について具体的に明記されており評価できる。
その他安全、衛生への配慮	
具体的かつ効果的な提案	Aグループの提案において、給食受け渡し後の温度管理について具体的かつ効果的な提案が明記されており評価できる。
(事業運営業務に関する事項総括)	
当該事項において、Aグループの提案は、各評価項目別に見ても全ての項目で応募者中の最大評価を獲得しており、非常に優れた提案であった。高い水準の資格及び経験のある職員配置や、衛生管理業務の詳細な検討、具体的な残滓の発生抑制・リサイクル方策について具体的に明記されており、市としては信頼度の高い運営委託を実施することができる。一方、Bグループ、Cグループの提案においても、優れた提案も確認できるが、全体としてみた場合、評価に差がつく結果となった。	
4) 事業計画に関する事項	
資金調達・返済計画の安定性	
資金調達の安定性	全グループの提案において、プロジェクトファイナンス調達、固定金利調達が具体的に明記されており評価できる。
返済計画の安定性	全グループの提案において、各種指標において一定数値が確保されており評価できる。
資金調達の確実性	
金融機関との融資協議の状況	全グループの提案において、各種指標による、一定数値以上の融資の実行期待度が確認でき、評価できる。

リスク管理の方針																			
リスク管理方策の基本認識	Aグループ、Bグループの提案において、発生回避、分散・移転、被害抑制等具体的に明記されており評価できる。																		
潜在リスクの指摘	Aグループの提案において、仮契約の締結リスクの指摘について具体的に明記されており評価できる。																		
リスク分担表に示したリスクの具体的管理方策	全グループの提案において、具体的に明記されており評価できる。																		
リスクの包括的管理手法	Aグループ、Bグループの提案において、維持管理、運営業務におけるバックアップサービスの確保等について具体的に明記されており評価できる。																		
個別リスクの管理手法として特に優れた方策	Bグループの提案において、許認可遅延リスクに対する宅地課との協議について具体的に明記されており評価できる。																		
市が実施する食数調整の自由度																			
給食数の変更許容幅の拡大	Aグループ、Bグループの提案において、具体的に明記されており評価できる。																		
食数変更通知の日程の柔軟性	Cグループの提案において、実施給食数の通知期限の拡大について具体的に明記されており評価できる。																		
その他	全グループの提案において、予定給食数と実施給食数の調整制限の拡大等について具体的に明記されており評価できる。																		
地域経済・社会への貢献																			
地元企業の構成員参画	Aグループ、Bグループの提案において、具体的に明記されており評価できる。																		
協力企業における地元企業の明確な取り扱い	全グループの提案において、地元企業からの資材調達等について具体的に明記されており評価できる。																		
地域住民に配慮した雇用計画	全グループの提案において、具体的に明記されており評価できる。																		
その他	全グループの提案において、講習会、見学会の実施等について具体的に明記されており評価できる。																		
(事業計画に関する事項総括) Aグループ、Bグループの提案において、市が実施する食数調整の自由度の項目を除いて、全ての項目で応募者中の最大評価を獲得しており、優れた提案であった。資金調達の安定性、リスク管理の方針について十分な検討がなされているとともに、地域経済・社会への貢献度も高いと考えられる。Cグループの提案においても、優れた提案が確認できるが、他と比較した場合、評価は下位に位置する結果となった。																			
5) 入札価格に関する事項																			
入札価格																			
(総合評価に用いる値)	各応募者の提案額から次表のとおり得点を算出した。																		
<table><tr><td></td><td>Aグループ</td><td>Bグループ</td><td>Cグループ</td></tr><tr><td>提案額(千円)</td><td>5,838,424</td><td>5,341,930</td><td>6,127,899</td></tr><tr><td>最低提案額(Bグループ)との差額</td><td>▲ 496,494</td><td>0</td><td>▲ 785,969</td></tr><tr><td>得点(50.0 - /80,000千円)</td><td>43.8</td><td>50.0</td><td>40.2</td></tr></table>					Aグループ	Bグループ	Cグループ	提案額(千円)	5,838,424	5,341,930	6,127,899	最低提案額(Bグループ)との差額	▲ 496,494	0	▲ 785,969	得点(50.0 - /80,000千円)	43.8	50.0	40.2
	Aグループ	Bグループ	Cグループ																
提案額(千円)	5,838,424	5,341,930	6,127,899																
最低提案額(Bグループ)との差額	▲ 496,494	0	▲ 785,969																
得点(50.0 - /80,000千円)	43.8	50.0	40.2																
の提案額は現在価値換算値である。																			
(入札価格に関する事項総括) 当該事項において、Bグループの提案は、PFI事業の範囲である各業務における多くの創意工夫により、結果としてコストの大幅な縮減を達成している。Aグループ及びCグループの提案においても、市の期待するコスト削減を示しているが、他と比較した場合、評価は下位に位置する結果となった。																			

3 優秀提案の選定

審査委員会における審査結果は、次表のとおりであり、定量化審査の得点の最も高いAグループ(鹿島建設グループ)を総合1位に選定した。

総合評価審査結果一覧

審査項目(配点)		Aグループ	Bグループ	Cグループ
設計・建設業務に関する事項	衛生管理計画(3)	3.0	3.0	1.5
	環境への配慮(3)	3.0	1.5	1.5
	バリアフリー(1)	0.5	0.5	0.5
	工程計画(2)	1.0	1.0	1.0
	小計(9)	7.5	6.0	4.5
維持管理業務に関する事項	維持管理体制(2)	1.0	1.0	1.0
	修繕計画(2)	2.0	2.0	2.0
	清掃業務(1)	1.0	1.0	0.0
	その他維持管理業務(1)	0.5	0.5	0.5
	小計(6)	4.5	4.5	3.5
事業運営業務に関する事項	調理体制(5)	5.0	5.0	2.5
	調理過程の安全性(4)	4.0	0.0	2.0
	衛生管理業務(4)	4.0	4.0	2.0
	運搬中の安全性(2)	2.0	1.0	0.0
	残滓の発生抑制・リサイクル(5)	5.0	2.5	2.5
	給食の受け渡し後の安全性(1)	0.5	0.5	0.0
	食中毒等の原因究明(2)	2.0	1.0	1.0
	その他安全、衛生への配慮(2)	1.0	0.0	0.0
	小計(25)	23.5	14.0	10.0
事業計画に関する事項	資金調達・返済計画の安定性(2)	1.0	1.0	0.0
	資金調達の確実性(2)	1.0	1.0	1.0
	リスク管理の方針(3)	1.5	1.5	0.0
	市が実施する食数調整の自由度(1)	0.5	0.5	1.0
	地域経済・社会への貢献(2)	2.0	2.0	1.0
	小計(10)	6.0	6.0	3.0
中計(50)		41.5	30.5	21.0
入札価格に関する事項(50)		43.8	50.0	40.2
得点合計		85.3	80.5	61.2
順位		1	2	3